

(様式第4号) 上田市国民健康保険運営協議会 会議概要

1	審議会名	上田市国民健康保険運営協議会
2	日時	平成28年11月17日(木) 午後1時30分から午後3時10分まで
3	会場	上田市役所6階大会議室
4	出席者	中村彰会長、尾澤圭子委員、小川みよ子委員、宮下暢夫委員、岸秀幸委員、戸島喜幸委員、飯高良造委員、北村康史委員、近藤久代委員、堀内吉孝委員、山野井功委員
5	市側出席者	櫻田福祉部長、細川国保年金課長、岩倉収納管理課長、石井健康推進課長、春原国民健康保険担当係長、橋詰国民健康保険担当係長、古川国民健康保険担当係長、井沢国民健康保険担当主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0名 記者 0名
8	会議録作成年月日	平成28年11月24日

協議事項等

1	開会(細川国保年金課長)
2	あいさつ(櫻田福祉部長)
3	委員及び事務局職員の紹介(細川国保年金課長、事務局職員は自己紹介)
4	会長及び副会長の選出 ・会長に中村彰委員、副会長に越田明子委員を選出
5	会議録署名人の指名 ・中村会長から、近藤委員と堀内委員の2名を会議録署名人に指名
6	議事 (1) 上田市国民健康保険事業の概要について 事務局：上田市国民健康保険の概要について資料により説明 (質疑等) 委員：特定健診受診率が低調なことについて、原因はどこにあり、どのような取組が必要か。 事務局：受診率向上のため、保健師による個別訪問、対象者全員への受診券や勧奨通知の発送、休日集団健診の実施など様々なことを実施しているが、思うように上がっていない実情がある。 普段医療機関に通院している方が、自分には特定健診は必要ないと考えている場合が多い。このような方についても、健診の周知を図ったり、普段の検査結果を特定健診に代えることができる「診療等情報提供票」の活用を勧めたりすることで、受診につなげていきたい。 委員：特定健診に代えるための「診療等情報提供票」については、HbA1c(ヘモグロビンA1c)の検査が課題となる。その項目は保険制度上、糖尿病か糖尿病を疑われる方を検査するためのものであり、全く健康な方を検査することを想定していない。病院で患者さんの健康管理していく上で必要ない場合は、HbA1cは検査しないので、特定健診の受診に代えるには項目が不足する場合がある。 (2) 上田市国民健康保険事業の財政状況について

事務局：上田市国民健康保険事業の財政状況について資料により説明
(質疑等)

委員：C型肝炎や肺がんの新薬について、国保財政への影響はどの程度か。

事務局：高額な薬であり、増加を懸念している。ただ、C型肝炎の新薬は1回の投与で効果が期待でき、一人で2回3回と増えていく状況でない。また将来的にC型肝炎や肝臓癌発症の減少が期待され、中長期的な医療費の抑制にもつながる。肺がんの新薬は、今のところ、使用医療機関・患者ともに限定的である。

(3) 国保税のあん分率(税率)の改定について

事務局：国保税のあん分率(税率)の改定について資料により説明
(質疑等なし)

(4) 平成28年度国民健康保険制度の改正について

(5) 平成29年度国民健康保険制度の改正予定

事務局：資料により説明
(質疑等)

委員：国保税の課税限度額の見直しについて、国保財政への影響はどうか。

事務局：課税限度額を超過する世帯があり、それらの世帯には影響がある。

(6) 国民健康保険制度改革に向けて

事務局：資料により説明
(質疑等)

委員：国保制度改革に伴って、一般会計からの基準外繰り入れは行われる見込みか。

事務局：基本的には繰り入れでなく、あん分率の改定で対応する見込みである。ただ改革の内容によっては新たな負担が生じる可能性もあるが、現時点では改革の詳細が明らかになっていない。

委員：既に長野県の医療費は低い水準だが、平成30年度以降の制度改革で導入される国の財政支援について、そのようなことは考慮されるのか。

事務局：現時点では、国の財政支援の詳細が明らかになっていない。医療費が低いところは保険料も低いという形で、現在も既に反映されているというのが国の考え方の中で、それよりも保健事業に努力しているか、といった点が重要になると思われる。

(7) その他

特になし

7 閉会(細川課長)

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。